

## アサヨ峰、仙丈ヶ岳山行報告

【日時】2019年9月14日～15日

【天候】2日間晴れ

【行程】13日夜 JR で千葉発甲府ゲストハウス泊

14日バスで甲府駅～広河原～北沢峠～仙水峠～栗沢山～アサヨ峰～  
栗沢山～北沢峠テント泊

15日テン場～小仙丈ヶ岳～仙丈ヶ岳～馬の背ヒュッテ～大平山荘  
北沢峠～バスで広河原～甲府駅～JR で帰葉。

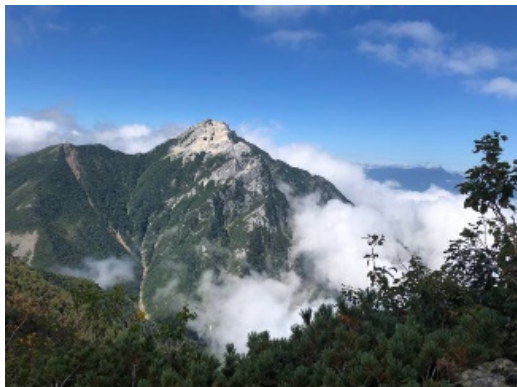
【メンバー】CL室、SL澤田路 記録澤田淳

【内容】はじめは、5人のメンバーで蓮華温泉から白馬大池方面予定のパーティーだったが、台風15号の影響で、停電となり復旧されたOさん、Sさんが不参加となり、リーダーは、中止を考えたが、3日間ピーカンの天気予報に急遽リーダーとサブリーダーリベンジのアサヨ峰にJRで出かけることに。

14日2,700円のゲストハウスで3時半起床。4時10分に甲府駅の広河原行きバス停へ着くとわらわらと人がおりザックの行列にビックリ！「時すでに遅し」と隣の武田信玄像に言われたような。まさか2時間バスに立ってゆられるとは、、寝て行こうなんて思ったのが甘かったことを知る。4時半バス出発。

恐いお婆さんの車掌さんに叱られながらバスに詰め込まれ、おつりのないようと突然言う車掌さんに「今払うんですか？」と質問したSLは、「今払わないで、いつ払うの?!」と一喝される。怖くてさすがの私もチョッピリしか言返せない。2時間ぐったり。広河原から北沢峠までの市営バスは、立ち席はなくゆったり20分バスに乗る。長衛小屋のテン場も大盛況！ゴールデンウィークの潤沢を思い出す。水場とトイレの近い場所を優しいおじさんが、開けてくださり、ほっと一息。やっぱり優しいのはおじさんか、、。

8時半スタートでアサヨ峰へ。仙水小屋で、目黒のサンマばりに天皇も感動し



＜アサヨ峰へ向かう途中から甲斐駒ヶ岳＞

て取り寄せたという水を詰める。美味しい！11:40 栗沢山着。目の前に花崗岩の雪のように真っ白な甲斐駒が圧巻！長いこと男性的な甲斐駒、女性的な仙丈と思ってきたが、長く生きていると断然強いのは女性と知り、甲斐駒に強くて立派な母性を感じる。栗沢山のごろごろした岩をめぐりアサヨ峰13:20着。仙水峠から先は、人が少なくなりいい感じ。



アサヨ峰は、貸切。絵本ウォーリーを探せにそっくりな  
明るいお兄さんが、一人きて、写真を撮り合う。帰りは  
栗沢山から直接天場に戻る。16:40。小屋の生ビー  
ルとおでんで乾杯！生き返る。十五夜の満月を期待する  
が、雲多く見えずに残念。仙水峠で、千葉から持って行  
ったお月見団子を3人で食べたからいいかと7時には就  
寝。夜中、トイレが近くてありがたい。満月みえず。

<栗沢山山頂><



<仙水峠から甲斐駒ヶ岳>



<栗沢山～アサヨの稜線>

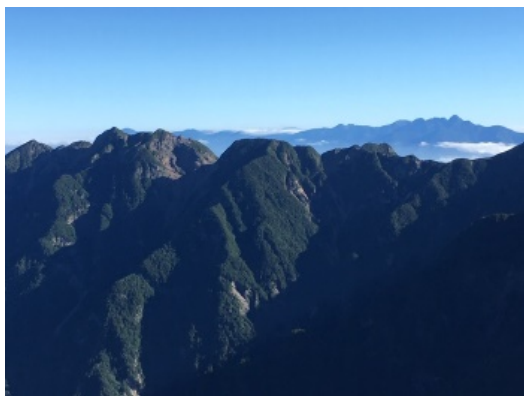


<アサヨ山頂 甲斐駒バックに>



<アサヨ山頂 記念撮影>

15日3時半起床。4時半出かけようとしたが、雲があり暗いので、4:55 仙丈ヶ岳へ出発。リーダーは、残念ながら頭痛でテントキーパー。今日も快晴。小仙丈ヶ岳 7:55 着。第一と二の高峰の富士山と北岳が隣り合い甲斐駒、アサヨ峰、鳳凰三山と素晴らしい景観に多くの人が、感動の声を上げていた。仙丈ヶ



岳 9:50 着。目の前に中央アルプス、その向こうに御嶽山、右手に八ヶ岳、遥か北アルプス。真下には仙丈小屋。すべてが、青空の下クリアーに見える。頂上は大賑わい。景色を楽しみながら仙丈小屋 9:50 着。トイレを借りて、下っていくと知らないおじさんが、小さい声で、「そこに雷鳥がいますよ。」と教えてくださる。

草の中に2羽の小ぶりの雷鳥が、ナナカマドの真っ赤な実を首を精一杯上げて食べている。可愛らしい。草と保護色になっていて、教えてもらわなければ気づかないでいただろう。ナナカマドの赤が印象的な道を進み馬の背ヒュッテに 10:50 着。分岐から行きとは違う左手の沢筋の道を大平山荘目指して進む。沢音だけは、涼し気だが、木陰なくずっとお日様の暑さが半端ではない。すぐに後悔するが、引き返すのも暑いので、人



が来ないはずだなあと思いながら文句を言いつつ大平山荘経由で、13:10 天場へもどる。13:30の市営バスは、間に合わないが、次の便が16時と予定していたが、臨時便が出るよさという情報をリーダーが、キャッチ。急いで、テント撤収しバス停に向かう。なぜか状況を読み違えて、素敵な長衛荘で、お茶やランチなどしているうちにバスが行ってしまい、今度は、真面目に次の便を待つ。3人もいて、やじきた道中である。

甲府駅では、あてにしていたお風呂屋さんが、お休みで、仕方なく体をふいて、着替え、お弁当とビールを買って、かいじに乗り込み無事帰葉。

今回は、メンバー全員で蓮華温泉に行くことができず、本当に残念だった。ぜひリベンジしたいものです。また被災されている多くの皆様の少しでも早い復旧を心より祈ります。